

祝 難工事を克服し、無事故・無災害で貫通果たす 地域の悲願、大谷川浜小積浜トンネル

宮城県が石巻市内で進めている(仮称)大谷川浜小積浜トンネル工事の貫通式が11月18日、石巻市大谷川浜地内の現地で行われた。

貫通式には宮城県の斎藤和城土木部長、石巻市の斎藤正美市長、女川町の伊丹相治副町長、安藤ハザマの木下真東北支店執行役員支店長らが出席。関係者による貫通発破や通り初め、鏡開き、万歳三唱などを行った。

斎藤部長は「これからトンネル内部のコンクリート工事や舗装工事、道路改良工事が続く。安全で利用しやすい新しい道路の一日も早い完成に向け、工事関係者とともにこれまで以上に安全管理を徹底しながら工事を進めていく」と意気込みを述べた。斎藤市長は「大谷浜と小積浜をへだてる山間部を短時間で安全に通行することが可能となる本トンネルは地域の悲願。トンネルの貫通は市としても大変心強く思っている」とあいさつした。

また、施工者代表として木下支店長は「皆さんのご協力があり、トンネルを貫通させることができた。関係者一体となってこれまで培った知識、経験、技術の総力を結集してこの難工事に取り組み、無事貫通できたことは施工者として誠に感慨深く、感無量である。本日トンネルは無事貫通したが工事は継続している。引き続き工事完了まで弊社の安全衛生基本方針である『安全はすべてに優先する』を貫き通し、誠心誠意工事を進めていく」と力を込めた。

大谷川浜小積浜道路整備事業は、主要地方道石巻鮎川線と女川牡鹿線を東西に結び、強靱で信頼性の高い、災害に強い道路ネットワークの構築を主な目的として、2017年度から延長1,840mの計画区間で事業を進めてきた。開通後は、緊急搬送時間の短縮、水産業など地場産品の販路拡大、観光客の牡鹿半島へのアクセス向上などの効果が期待される。トンネル区間の延長820mについては、24年7月から掘削工事に着手し10月31日に実貫通した。工期は26年7月末を予定している。



安藤ハザマ・橋本店・木村土建 特定建設工事共同企業体

人と技術で、未来に挑む。



執行役員支店長 木下 真

東北支店／仙台市青葉区平1-2-32
TEL.022(266)8111(代)

7時4時
勤務推進



株式会社 橋本店
代表取締役社長 武田 文孝
<https://www.hashimototen.co.jp>



株式会社木村土建

代表取締役 木村 浩章

宮城県東松島市大塩字五台23-2
TEL.0225(82)3006(代) FAX.0225(83)4143



ごあいさつ
安藤ハザマ・橋本店・木村土建
特定建設工事共同企業体
(仮称)大谷川浜小積浜トンネル作業所
現場代理人 山本 一也

2024年7月17日のトンネル工事の安全祈願祭から数えること471日目の25年10月31日に、(仮称)大谷川浜小積浜トンネルが無事実貫通しました。

私自身初めてのトンネル工事ということもあり、一筋の光が差し込んだ貫通の瞬間は、これまでの苦労が一瞬にして吹き飛びほどの感動を味わいました。

工事期間中、騒音・振動対策、低土被り区間の掘削および破碎帯区間の掘削など数々の問題に直面しましたが、発注者の皆さま、設計会社の皆さまをはじめ、工事に関わったすべての関係者の皆さま、そして地元の皆さまの温かいご支援により、これらの難所を乗り越えることができました。

25年11月18日の貫通式では、工事関係者全員で「万歳三唱」を行い、この大きな節目をともに祝うことができましたことを心より嬉しく思っています。

掘削作業は完了しましたが、今後も坑内にて覆工、インバート工および舗装工等と工事が残っております。一日でも早い竣工を目指し「安全はすべてに優先する」をモットーに一日一日を大切にして作業を進めてまいります。

引き続き工事車両の通行、資材の運搬等で大変ご迷惑をお掛けいたしますが、安全の確保に万全を期してまいります。

近隣の皆さまにおかれましては、今後もご理解ご協力を賜りますよう何卒お願い申し上げます。